

私の一文字



マネーフォワード 取締役社長 CEO
辻 庸介

2019年度より第1期ノミネートメンバー、
2021年4月経済同友会入会、21年度データ
戦略・デジタル社会委員会副委員長。

社会をもっと前に「進める」

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第1期ノミネートメンバーだった会員経営者の皆さまにお話を伺うシリーズの4回目は、辻庸介マネーフォワード取締役社長CEOにご登場いただきました。

岡西 「進」という漢字の成り立ちは、真ん中の「隹」は鳥の象形文字、「辶」は前に進む、移動する距離を表します。鳥が前に進む、羽ばたいていく縁起の良い漢字ですので、躍動感あるイメージで書かせていただきました。

辻 このような素敵な字にさせていただいてありがとうございます。今の世の中、先人の努力ですごく良い社会になっていると思うのですが、それを僕たちの世代で途絶えさせるわけにはいかない。もっと前に進めていかないといいなと思います。

僕は企業向けクラウド会計ソフトなどを提供していますが、今までは例えば居酒屋だと午前1時まで店を開いて、そこから午前2～4時まで会計処理をやり、やっと寝られたと思ったら次の日の仕込みがあって、結局3時間しか寝られなくて夫婦間でけんかが多くなる。でも、ソフトを使えるようになって睡眠時間が延び、夫婦関係も良くなって毎日の生活が劇的に変わったというようなことを言っただけだと、やっつけてよかったと思ひ、それがモチベーションになっています。僕も岡西さんのモチベーションに興味があります。

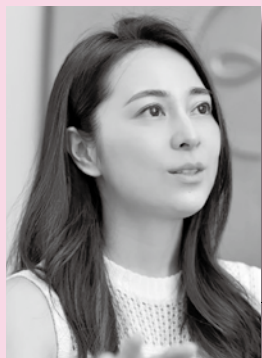
岡西 書道は6歳から続けており、経済同友会の「私の一文字」は人の生き様を一文字に表すものなので、私にとってやりがいい、生きがいのような感覚で続けさせていただいております。辻さんは「前」を選ばれるかなと思いましたが、「進」となって「なるほど」と思いました。

辻 マネーフォワードという社名は、当初は違う名前に決めていたのですが、コピーライターの渡辺潤平さんが考えてくれました。ただ、事業がどんどん大きくなり、お金の枠を超えるような取り組みも増えてきています。お金は大きな部分ですが、お金に関するに加えて、さらに社会をフォワードしていくというのが僕たちのやりたいことなので、腹落ちできる漢字を選べたと思います。

岡西 今後の社会をより良く前進させるために、進めていきたいことは何でしょう。また、経済同友会活動への期待、抱負をお聞かせください。

辻 僕たちはフィンテック、SaaSと言われる領域で、テクノロジーの力で企業の生産性を上げたり、個人のお金の不安を解消することができるようなサービス作りに愚直に取り組んでいこうと思っています。

東京五輪のさまざまな問題を見て、この国は古い昭和の価値観を早くアップデートしていかなければいけないと思いました。日本は素晴らしい国だと思いますが、時代の流れについていけない構造的な部分はアップデートしていく必要があると思います。経済同友会がそのアップデートをリードし、社会を前に進めていく、「フォワード」をしていく必要があると思いますし、僕たち自身も少しでもそのお役に立てればと思います。



書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。